

12月のできごと

まちかど クリップ

寒い季節に活躍 毛糸で「スヌード」作りに挑戦

白老町の子育て支援NPO法人お助けネットが運営する「子育てふれあいセンターすくすく3・9」で13、18日の両日、「スヌードを編もう」が行われました。

編み物初心者という主婦8人が参加。講師の和歌佳世さんから手ほどきを受け、2回の講習でスヌードを完成させました。

参加者からは「すっかり楽しかったので、家族分作りたい」「編み方を忘れないうちに自宅で何個か作ってみたい」など大好評。また、「都合が悪くて参加できなかった」と残念がる声も多く届き、スタッフは「年度内にもう1回開催できるように調整したい」と話していました。



ミナパチセで 「てんかん」当事者のお話会



▶てんかんの症状などについて話す林さん(奥)

てんかん当事者によるお話会「『てんかん』ってなあに？」が16日、白老町社台191のコミュニティカフェ「ミナパチセ」で開かれました。

てんかんとは、脳の神経細胞の規則正しいリズムを持った活動が突然崩れ、激しい電気的な乱れによってけいれんや意識喪失などの発作を起こす病気といわれています。

今回は高校3年の頃から発作と闘ってきた苫小牧市在住の会社員、林葉子さん(41)が、てんかんの症状や発病してからの生活の変化、とりまく環境などをわかりやすく話しました。

7人の参加者は、林さんの「リラックスしている時のほうが発作が起こることが多い」「もし身近な人に発作が起きたら、メガネや時計などの貴金属類は危険なので外してあげて」といった話に興味深そうに耳を傾けていました。

発病して間もなくカミングアウトしたという林さんは、「かつては多少の差別を受けたこともありますが、隠すよりオープンにしたほうが周りが助けてくれてありがたいです」と笑顔で話していました。

好評につき第2回目も開催が決定。2月3日午後1時からミナパチセで開かれます。参加無料。希望者はミナパチセ(☎080-1874-3624=田村さん=)へ。

キャンドルキー タイズ
CANDOLLKEYさんとTIES
カフェ チリンでライブ



◀ソウルフルな歌声と三味線の音色で観客を魅了

苫小牧市在住のシンガーCANDOLLKEYさんと津軽三味線ユニットTIESによる2017年最後の単独ライブが17日、苫小牧市錦町1のカフェ・チリンで開かれました。

CANDOLLKEYさんは15年前、主にR&Bを歌うシンガーとして活動をスタートしました。親しみやすいキャラクターの中にソウルフルな歌声と観客を魅了するステージングは人気が高く、市内外の祭りやイベントに出演しています。

2012年に結成したTIESは、兄Takumaさんと弟Yutoさんの兄弟ユニット。CANDOLLKEYさんが主宰する音楽事務所ドルリップスレコーズに所属し、伝統的な民謡のほか、Jポップや洋楽などもこなしています。

共演は2015年からで、様々なイベントで注目を集めています。昨年10月には「CANDOLLKEY×TIES」のファーストアルバム「ALIVE」(5曲入り2,000円)を発売しました。

今回は、昨年12月で閉店を迎えたチリンで開かれる最後のライブとして企画。とまこまいカレーラーメン振興局の公式ソング「CARELER(カレラ)」などのオリジナル曲やカバー曲のほか、TIESによる「津軽じょんがら節」などを披露し、集まったファンたちから大きな拍手と声援が送られていました。



▲昨年10月には3人のファーストアルバムを発売

みやながマルシェ 野菜や雑貨、スイーツなど販売

苫小牧市弥生町2の宮永商店で13日、「みやながマルシェ」が開かれました=写真=。

月1回のペースで行われ、今回で21回目を迎えました。苫小牧市内の飲食店や各団体、フリーマーケットなどが出店しています。

今回は約10団体が出店し、むかわ町の新鮮野菜をはじめ手づくり雑貨、スープ、スイーツ類などを販売。ポーセラーツの体験会、ケバブやコーヒーの移動販売車も登場し、買い物客らでにぎわいました。今月は25日午前10時~午後3時に開催します。

